

## (12) 虫に刺された（クラゲ刺傷を含む）

さまざまな虫に刺される（咬まれる）機会が多く、日常よく虫刺症を経験します。多くの場合その症状は皮膚のはれ、発赤、かゆみ、痛みなど皮膚症状に局限し、ステロイドや抗ヒスタミン薬を含む塗り薬で対応が可能です。

しかし、虫の種類によっては**アナフィラキシー**という激しいアレルギー性の反応（じんま疹、声門浮腫、呼吸困難、ショック）を起こし、命がおびやかされる場合もあります。めったにないことですが、いざという時のために心構えだけはしておきたいものです。

### 医療機関救急受診のポイント

（救急外来を受診しましょう）

- ▶ 全身にじんま疹が出る
- ▶ 急に激しく咳が出て、ゼーゼーいう※
- ▶ 息が苦しそう※
- ▶ 顔色が悪い※
- ▶ 特に※の場合はアナフィラキシーが考えられます。早く救急車を呼んだほうが良いでしょう。

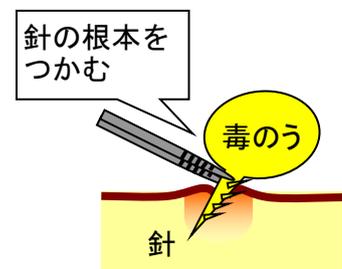
### 家庭での対処法のポイント（Q & A）

#### Q 1 ハチに刺された時どうしたらいいですか？

スズメバチ＞アシナガバチ＞ミツバチの順で毒性が強いとされています。ハチに刺された場合まず針が刺さっているか確認することです。毒針が刺さっている場合針を抜きますが、その際毒のうを押さえないように注意して抜くことが大切です。抜いた後は周囲の皮膚を圧迫して毒をしぼり出し、流水でよく洗います。その後はステロイドを含む軟膏を塗ったり、必要なら局所を氷のうで冷やします。そして上記のような**アナフィラキシー**症状が出てこないか観察し、少しでも疑った場合はすぐに救急車の出動を要請してください。

なお、過去にハチに刺されてアナフィラキシー症状を起こしたことのある方は万が一に備えアドレナリン注射（エピペン）の常備・携帯をお勧めします。

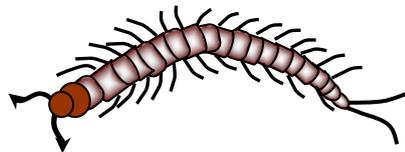
詳しくは医療機関でご相談ください。



## Q 2 ムカデにかまれた時どうしたらいいですか？

咬まれた直後から激しい痛みを感じ、咬まれた箇所はホッチキスの針で穴を開けたような傷が残るのが特徴とされています。局所は腫れて痛みますので、ステロイド剤の外用や局所の冷却を行います。ハチ毒と同様に全身のアナフィラキシーを起こすことがありますので要注意です。早い目に医療機関を受診しましょう。

なお、寝ている間に咬まれることが多いとされ、予防上の留意点の一つです。



## Q 3 クラゲに刺された時どうしたらいいですか？

クラゲの触手には毒をもった刺胞がついており、刺すと毒素を放出します。刺された部位は激しい痛みと発赤、腫脹、線状の皮膚炎などがみられます。刺傷部位は触手が残っていれば、こすらずに押し出すように抜去し、その後海水（真水ではない！）で洗います。まれにアナフィラキシーショックを起こすことがありますので、できるだけ安静にし、速やかに医療機関を受診してください。



## Q 4 ケムシ・毒ガに触れてしまった時どうしたらいいですか？

有毒毛をもつケムシに触れることによって、皮膚炎が起こります。毒ガの幼虫（ケムシ）には、毒針毛と呼ばれる長さ0.1mm程度の微細な毛が数十万本以上あり、これに触れると突き刺されピリピリした痛みや、しばらくするとかゆみの強い赤いブツブツが現れ、かくと更に悪化します。ケムシや毒ガに触れた場合、その部分にセロハンテープを貼っては剥がず針はがしを繰り返して毒針毛を除去します。その後泡立てた石けんで洗ってシャワーで強く洗い流します。かゆみがひどい場合はステロイド外用薬を塗ります。

